

2022年2月22日(月) 13:00~13:45

日本投資環境研究所主催 個人投資家向け IR セミナー

<質疑応答概要>

Q：新しい医療用漢方製剤（漢方の新薬）は販売しないのか。

A：漢方薬を新たに上市する場合は、新薬と同様に臨床試験を行って承認を取得する必要があり、当社では新しい医療用漢方製剤の開発は行っていない。承認されている(薬価収載されている)医療用漢方製剤は148品目あり、そのうち当社は129品目を製造販売しており、さまざまな疾患に対応できると考えている。

Q：漢方薬を処方してくれる病院・クリニックを探すにはどうすればよいか。

A：「日本東洋医学会の漢方専門医の検索サイト」「漢方のお医者さん探し」あるいは「Q Life 漢方クリニック」などの検索サイトで、漢方を処方している病院の検索が可能のため参考にしてほしい。

当社は、国内のどの医療機関においても、必要に応じて“漢方”を取り入れた治療を受けられる医療現場の実現を目指し情報提供活動を行っている。

Q：新型コロナウイルス感染症に有効な漢方薬はないのか。

A：新型コロナウイルス感染症に対する保険適用された漢方薬はないが、新型コロナウイルス感染症に伴う関連症状として、不安感、不眠、めまい、皮膚炎、倦怠感などの症状に対しては漢方薬が有効であるとの報告が多数ある。また、コロナ後遺症外来が設置された病院が増えており、これらの専門外来では後遺症の治療に積極的に漢方薬が使われている。

Q：新型コロナウイルス感染症に効果のある漢方薬の開発をお願いしたい。

A：大学病院など研究施設に対して資金や薬剤の提供など漢方治療研究を全面的に支援している。

最近では、「感染初期の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）患者に対する新規生薬エキス製剤・エフェドリンアルカロイド除去麻黄エキス(EFE)の有効性及び安全性を探索的に検討する医師主導治験」について、北里大学／国立医薬品食品衛生研究所との共同研究を行っており、当社は資金提供をしている。

Q：中国産の原料生薬が多いようであるが、日本産は増やしていかないのか。

A：現在、国内には6ヶ所（北海道・岩手県・群馬県・高知県・和歌山県・熊本県）に主要な生薬産地があり、そこを中心に栽培指導などを行うことによって生薬栽培の拡大を図っている。

北海道については、生薬の生産・加工・保管拠点の事業を統括するため、2009年に子会社（株式会社夕張ツムラ）を設立し、生薬栽培の拡大を図っている。

今後も国の補助事業（薬用作物等地域特産作物産地確立支援事業）や外部機関（マイファーム）等も活用しながら、国内栽培の拡大を図っていく。

Q：中国事業についてリスクをどの程度把握し、事業展開を進めようとしているのか。

A：当社は、40年以上前から、中国と原料生薬の契約栽培体制を構築するなど、中国との関係の歴史は長く、今日においても確固たる信頼関係を築いていると踏まえている。多くの日系企業と同様に、中国の医療政策および他社動向など注視しながら事業を押し進めている。

Q：医療用漢方製剤と一般用漢方製剤（OTC）は何が違うのか。

A：医療用漢方製剤は、医療機関で医師の診断のもとだされた処方箋に基づき、病院・薬局で薬剤師が調剤するもの。国の薬価基準に記載され、健康保険が適用される。一般用漢方製剤は、医師の処方箋が不要で、薬局・ドラッグストアなどで誰もが購入できるもの。OTC用漢方製剤は病状が比較的軽い患者を対象としており、医師の診断によるものではなく、いわゆるセルフメディケーションとして薬剤師等の指導によるか、もしくは患者が自らの判断により買い求め使用されることを考慮し、特に安全性の確保が重要となる。OTC用漢方製剤のエキス量は満量からその量の1/2までの範囲が当局から認められており、ツムラでは、安全面を重視し、OTC用漢方エキス顆粒のほとんどを医療用の1/2量としている。

Q：テレビCMなど広告宣伝をもっと強化したらどうか。

A：当社の主力製品である医療用漢方製剤は、広告規制がありテレビコマーシャルなどでの具体的な広告・宣伝を行うことができない。漢方の啓発活動については、高齢者・女性認知症・がんなどをテーマとした市民公開講座などを開催している。

OTCは、主にインターネットを通じた漢方の情報発信に力を入れている。

Q：競争相手として意識される企業はどこか。

A：国内の医療用医薬品市場は約 10 兆円であり、そのうち医療用漢方製剤は約 1600 億円と市場全体の 1.6%程度である。

当社は漢方のリーディングカンパニーとして、国内のどの医療機関・診療所においても、患者様が必要に応じて漢方を取り入れた治療を受けられる医療現場の実現に、他の漢方薬メーカーとともに貢献していきたいと考えている。

Q：漢方薬は長く飲み続けないと効かないのか。

A：漢方薬は、慢性疾患に使われることも多く、治療に時間がかかることがあるため、長く服用いただくケースもある。一方で、風邪のような急性疾患やこむら返りなど急性の痛みにも使われ、早期に効果を発揮する処方もある。

以上

【注意事項】

本資料の内容は、説明会での質疑応答をそのまま書き起こしたものではなく、主旨を踏まえて要約したものであることをご了承ください。